

えりもしゃくなげ



教育委員会だより 発行者 教育長 川上松美

中学校の先生方が統一した板書構想

えりも中学校では、今年度の全体研修として、道立教育研究所のアドバイスを受けて、3つの柱、①学習規律の徹底

②魅力ある導入の工夫③全員が参加する授業を掲げて、基礎学力の定着を図っています。

特に、板書では、『課題、考え、まとめ』を明確にして黒板にカードで表示し、どの教科も授業で「何を学習するか」「何を学んだのか」をはっきり示して進めています。その状況を振り返るため全体で研修する場をもって進めるなど、学校が「チームえりも中」として取組を始めています。



よりよい家庭学習への取組

各学校では、家庭学習の充実を図る取組を行っています。写真は、えりも岬小学校で取り組んでいる例です。児童が家庭学習で取り組んだノートを「家庭学習をがんばる岬っ子」「先週光ったページ」と題して、廊下に掲示し、家庭学習の定着や図っている様子です。



また、各学校では、ノートをしっかりと取らせて振り返りがスムーズにできる取組も進めています。写真は東洋小学校の例です。



基礎Aのえりも町の立ち位置

下記の棒グラフは、本年度当町で重視して指導している基礎問題Aについての小・中の立ち位置を示しています。昨年度の立ち位置と比較してみると、小学校国語Aは全道より+2、全国より+1ポイント高くなり全国以上、算数Aは昨年度より全国との差が-8.8から-3となつて5.8ポイント縮まり全道平均並みとなるなど、大きな向上が見られました。中学校では国語Aが全道・全国平均となり、数学Aは全国との差が4.9ポイント縮まるなど、成果の兆しが見られました。今後は、応用力の育成を含めた基礎学力定着を図る方策の一層の強化を進めてまいります。

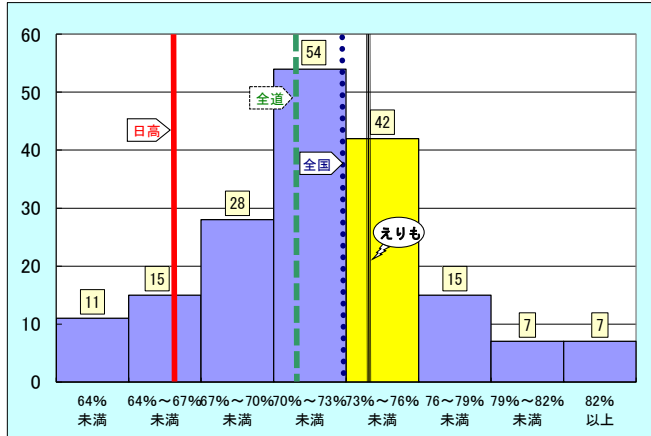
平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果について (その3)

平成26年12月 えりも町教育委員会

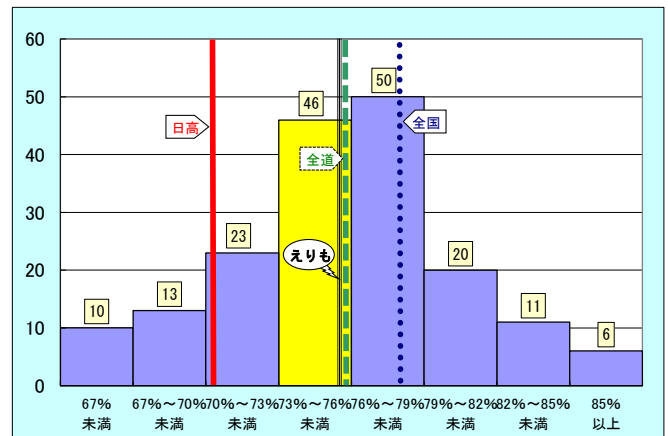
◆平均正答率のえりも町の立ち位置【基礎力】

(全道179市町村。縦軸の数値は、該当する道内市町村の数、横軸は平均正答率を3%幅で表記)
※この調査は、小学6年生、中学3年生を対象とするものです。

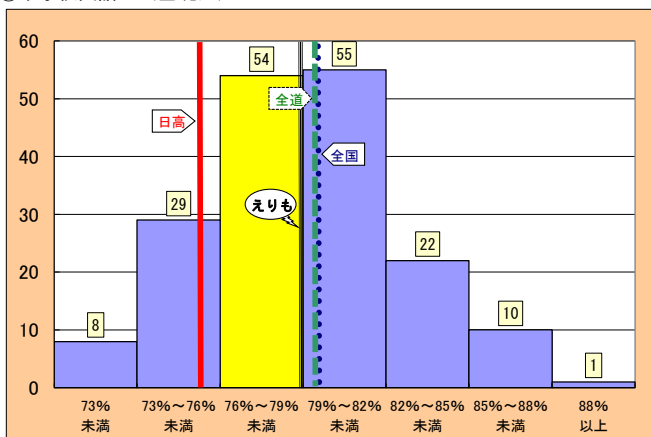
①小学校国語A (基礎力)



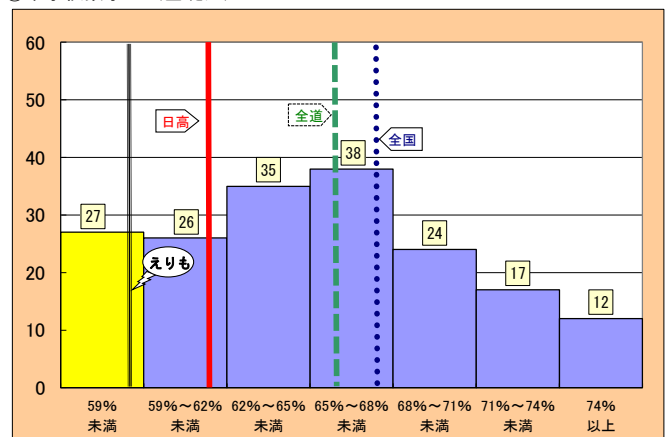
②小学校算数A (基礎力)



①中学校国語A (基礎力)



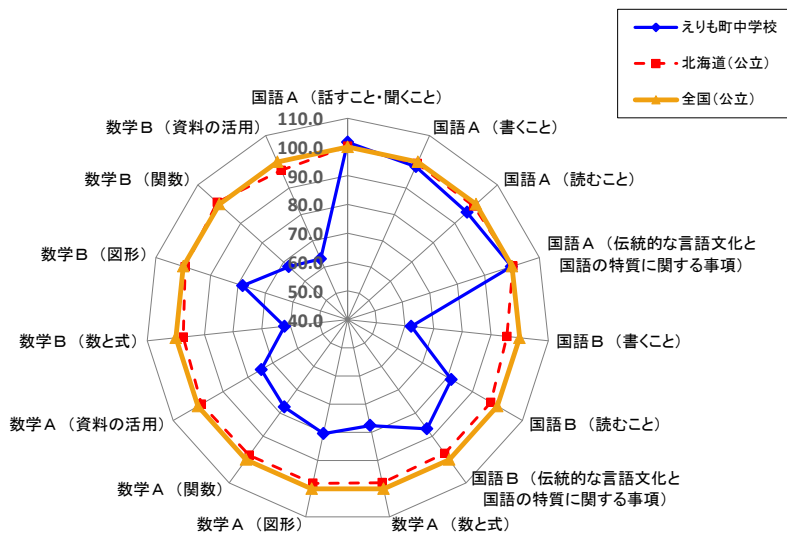
②中学校数学A (基礎力)



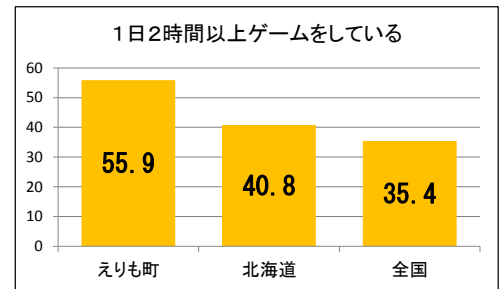
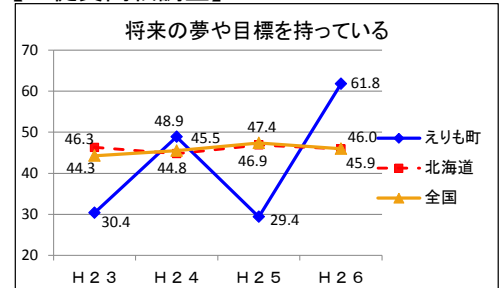
■ えりも町内中学校の状況及び学力向上策(中学校3年生)

【教科全体の状況】

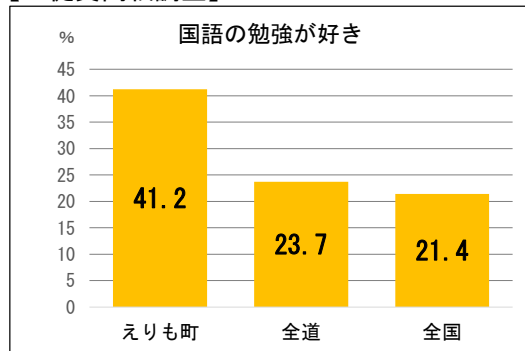
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



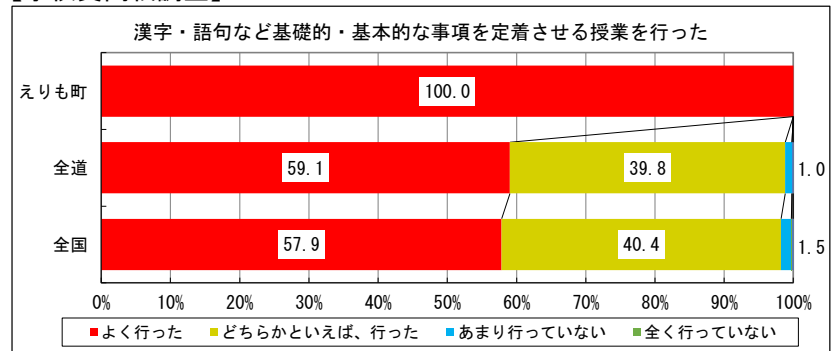
【生徒質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語A「話すこと・聞くこと」が全国平均、全道平均を上回っている。	○ 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行ったことにより、国語の勉強が好きと考える子どもが多くなるとともに、国語A「話すこと・聞くこと」「書くこと」の力が高まってきたと考えられる。
生徒質問紙	○ 授業のはじめに目標が示されていたと思うという子どもの割合が全国・全道より高い。 ○ 将来の夢や目標を持っている子どもの割合が高い。 ○ 1日2時間以上ゲームをしている子どもの割合が高い。	
学校質問紙	○ 学校全体において、授業の冒頭で目標を示す活動を行った。 ○ 学校全体の学力の傾向や課題について、全教職員の間で共有している。	○ 「チームえりも」で小・中・高全町あげて学力向上に取り組むことにより、校種間の連携、特に教職員の意識が一層高まってきたと考えられる。

【えりも町の学力向上策】

- ◎ 基礎学力の定着を図る取組の強化
- ◎ 「チームえりも」で全町をあげた学校教育の充実
- ◎ 教育向上対策委員会による「えりも町学力向上推進」の計画・実施・評価・改善
 - 学校では数値による実態把握と到達目標、家庭学習では手引きの改善と「10分×学年+10分」の推進、積極的な他校との研修の実施。特に、次の3つの重点として取り組む。
 - ①10項目の学習規律の徹底
 - ②板書とノート指導の一体化
 - ③指導過程に位置付けた「定着」の段階の確実な位置付け